

# ガンドラックはトランプが次の米国大統領になると予想し、 経済界、金融界、政治界に衝撃を与えた



**「トランプは来週勝つ、そして2027年までに『何らかの革命』があるだろう」**

**「我々は、非道な量の赤字支出であからさまな社会主義政策の確率を割引しなければならない」とガンドラックは言った。  
「それは株式市場と債券市場にとって大きな問題となるだろう」**

(バロンズが開催したラウンドテーブルでの発言)

選挙日が数日後に迫る中、ほとんどの世論調査やメディアがバイデン氏有利を伝えているが、ガンドラック氏は「私の目にはトランプ氏の勝利が有利だ」と述べ、トランプ大統領の再選を予想し、その理由として次の3つをあげた。

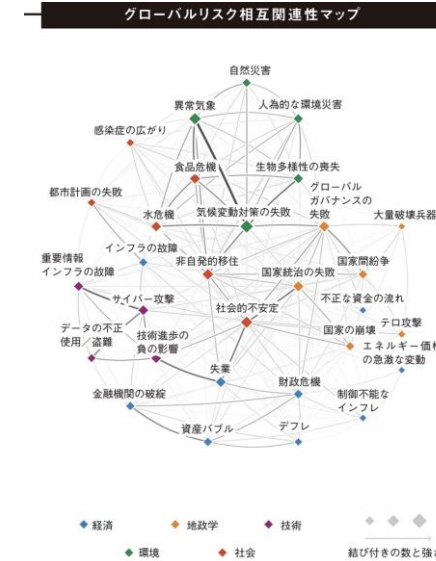
- 政治的な世論調査はしばしば現実を説明するのではなく、印象を操作するために作られており、信用すべきではないこと
- 「自分の意見を表に出さない有権者（shy voter）」として知られているように、自分たちの政治的信念に対する報復を恐れているため、多くのトランプ有権者が世論調査員やメディアと関わりたくないと主張していること
- バイデンは彼を支持する熱狂がないという問題に直面していること

そして、どちらが大統領選挙に勝利するかに関係なく、上院は共和党が維持する可能性が高いと主張した。「一部の人々は、バイデン氏もトランプと同様にリスクが高いと見ているので、賭けをヘッジし、共和党上院の維持に賭けている」と述べている。また、トランプ氏はリスクが高いと言われているが、彼の大統領任期の4年間では、いくつかの暴言や好戦的な言葉にもかかわらず国際的な紛争は起きていないと指摘。「市場は不確実性を嫌うものであり、トランプ氏の場合はより確実性があると思う。バイデン氏の場合は、国民に与えられた情報が非常に少ないため、今、不確実性がピークに達している。」と指摘した。

ジェフリー・ガンドラック氏によると、米国は分裂する可能性があるという。

経済はすでにボロボロになっているが、ワシントンが大きな刺激策を提供しなければ、ディザスターになるだろう。

# グレート・リセット

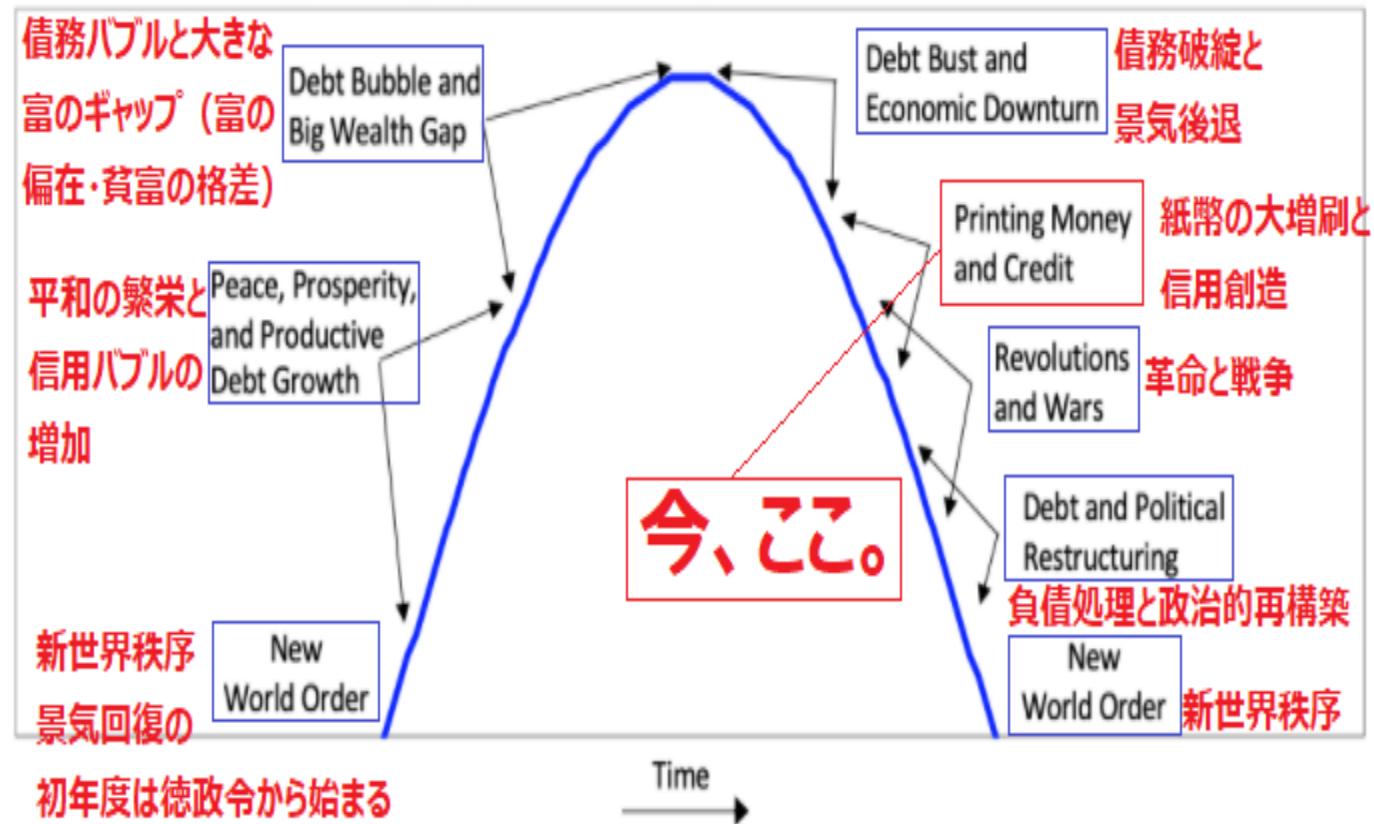


問題の改革は、政府、国際関係、金融、エネルギー、食料、医療、雇用、都市計画、不動産、法執行機関、人間の相互作用など、地球上の生命のあらゆる分野を混乱させることを目的としており、私たち自身と世界との関係を変える

# 着眼大局・着手小局！「全体の状況を俯瞰的に見ながら、目の前の小さいなことを細心の注意を払って実践する」（孔子）

帝国の背後にある典型的な大きなサイクル

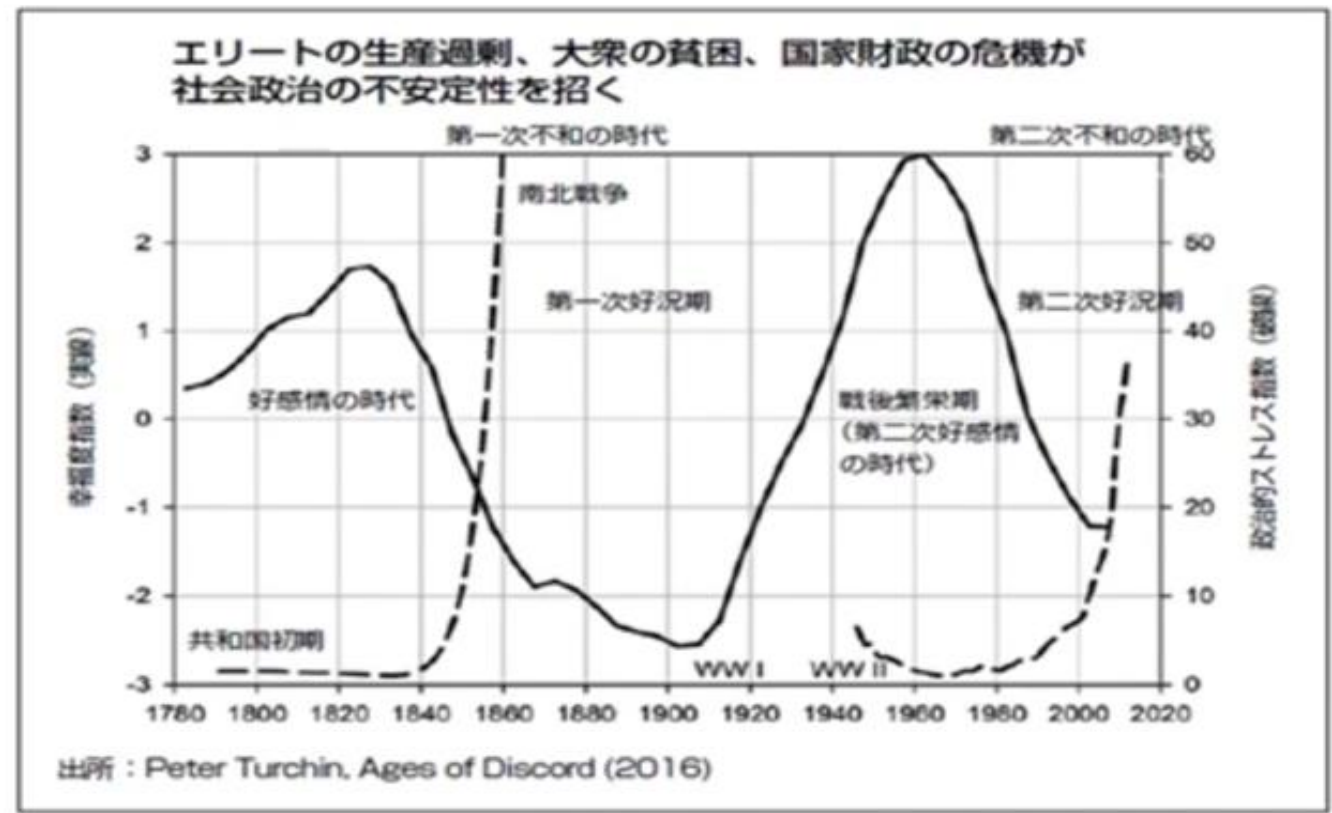
The Typical Big Cycle Behind Empires' Rises and Declines



**トランプの人格や発言は耐えがたく、人としてとても許容できない。それでも私は「トランプ当選」を望む。その理由をお話ししよう。／文・エマニュエル・トッド（歴史人口学者）**

- **今の米国は「分裂状態」と「良好な経済状態」という二つの矛盾した現実がぶつかり合っている**
- **高学歴エリートはリベラルであるはずなのに「自分より低学歴の大衆や労働者を嫌う左派」という語義矛盾の存在になり果てた**
- **米国の歴史を前に進めるにはまず民主党の側に“意識改革”が必要。そのための最良の方法が、バイデンを当選させないこと**

エリートの生産過剰、大衆の貧困、国家財政の危機が社会政治の不安定を招く。  
 トランプ的なるものは、息苦しい世間のなかで、寛容さを保証してくれた。  
 これから、正義を振りかざす不寛容なリベラルによって、米国社会は旧ソ連のような  
 管理・監獄社会に向かい、米国は第二次不和の時代を迎える。

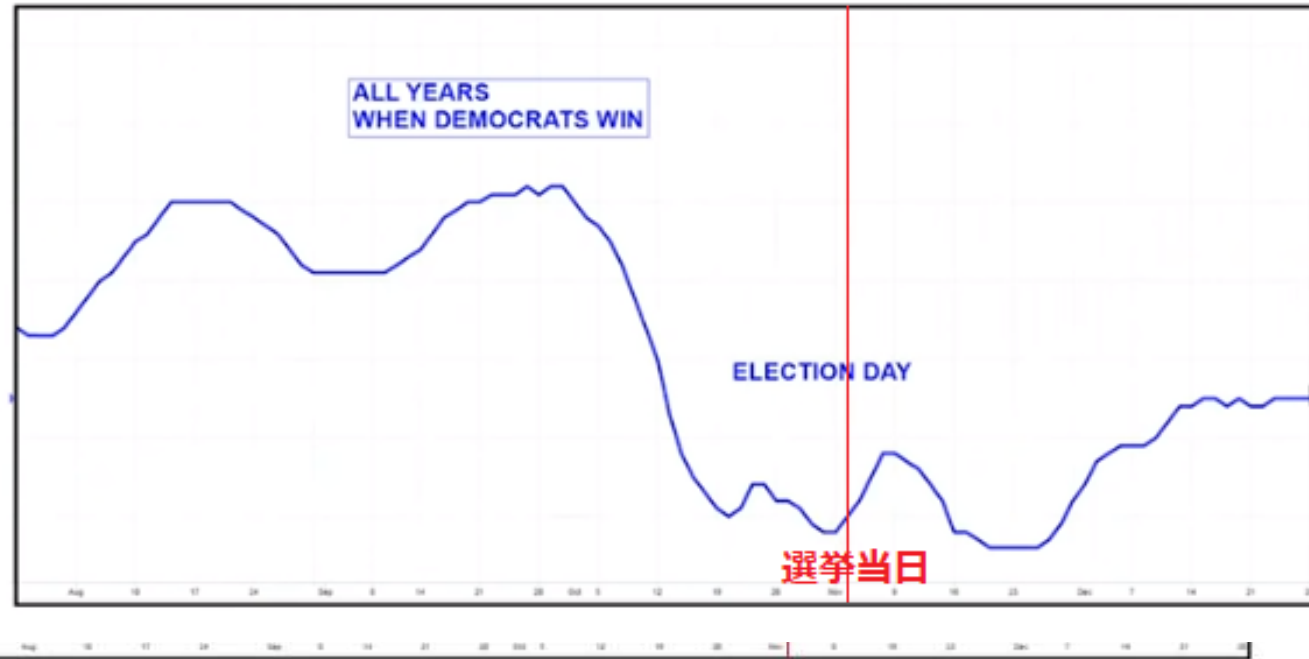


出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート (パンローリング)

# 民主党（バイデン）が勝った場合

If Biden wins....expect this

11



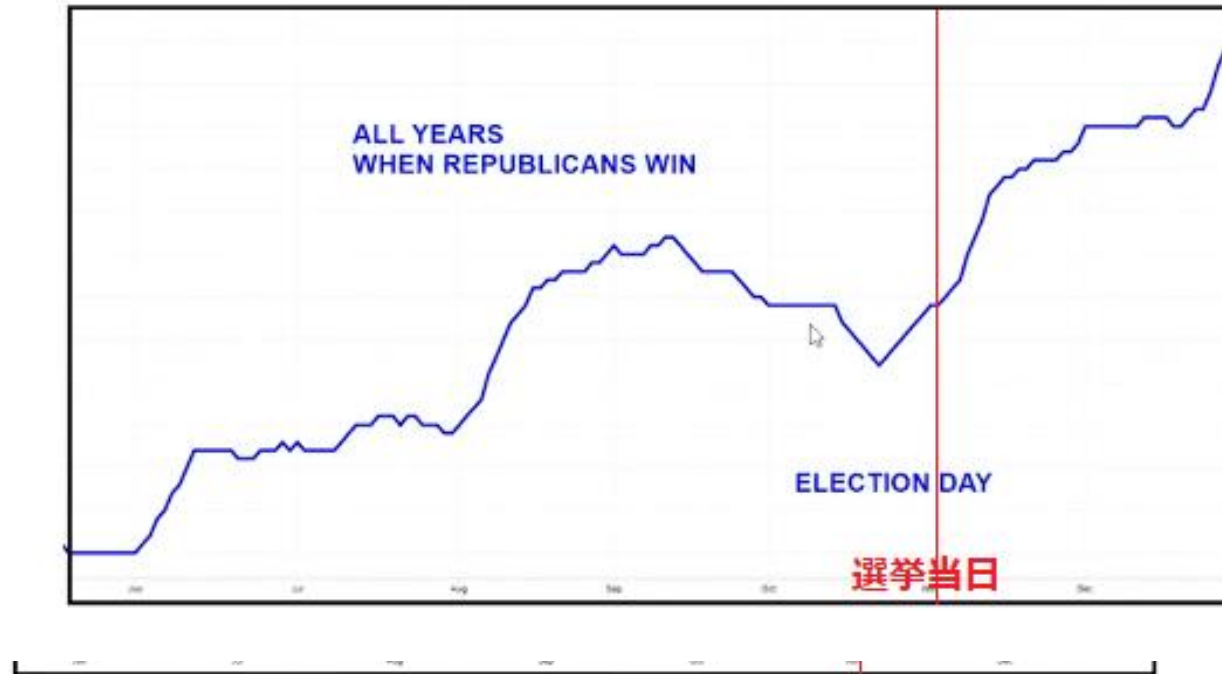
出所 : <https://www.youtube.com/watch?v=blkQeHVZ-7M>



# 共和党（トランプ）が勝った場合

If Trump wins.....expect this

↑

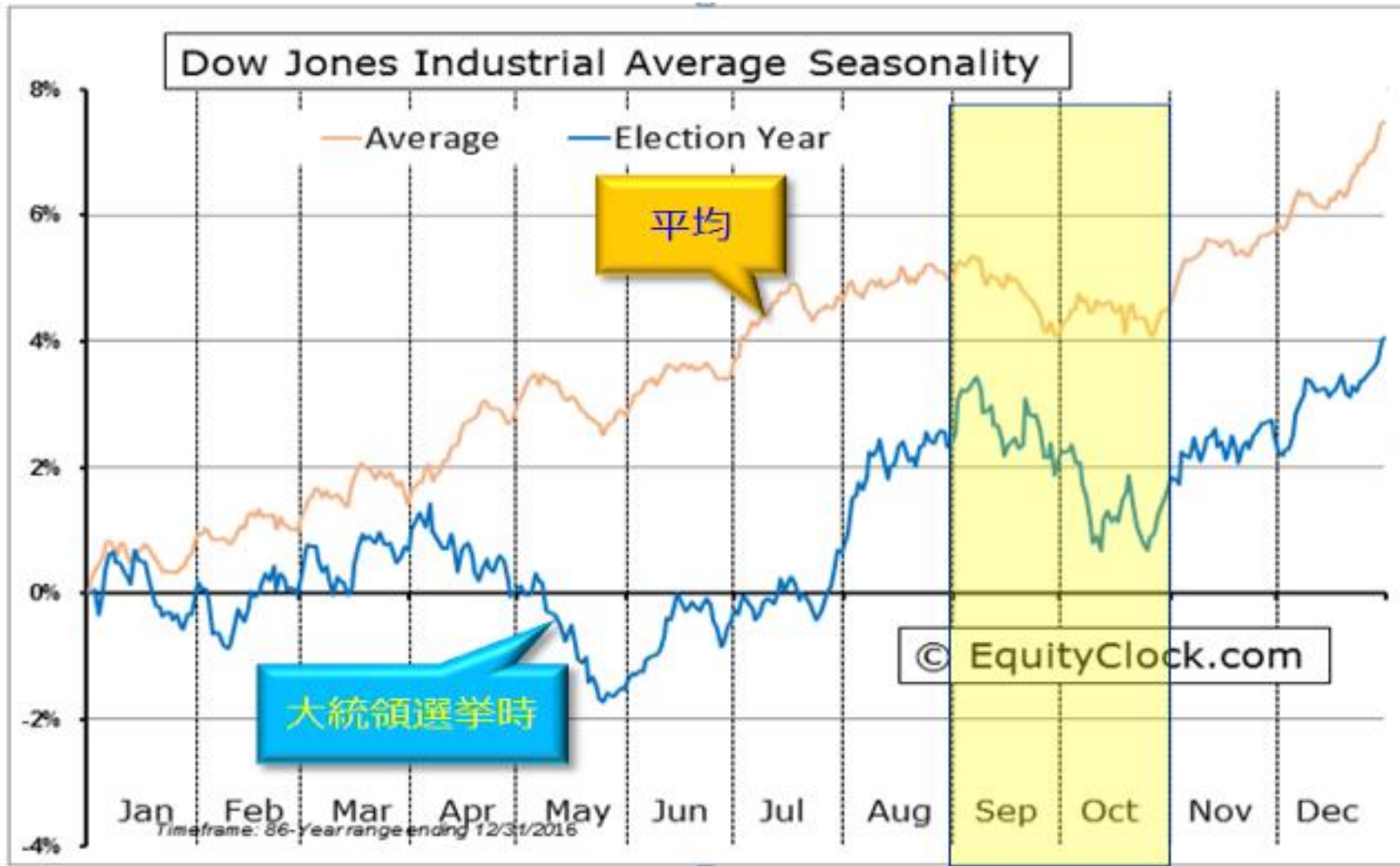


出所 : <https://www.youtube.com/watch?v=blkQeHVZ-7M>





# 米大統領選挙年のサイクル



出所：エクイティクロック

# コラム：米金融界が戦々恐々、「上院勢力逆転」の未来図（11月2日 ロイター）

米金融界は共和党のトランプ政権の下で優しく丁寧な扱いを享受してきた。しかし11月3日の選挙で民主党が上院の多数派を制すれば状況は一変する。恐らく、シェロッド・ブラウン議員が銀行住宅都市委員長に就任するからで、この人事は大手行にとって身がすくむような未来図になる。

オハイオ州選出のブラウン氏は長年、ウォール街たたきにいそしんできた。同氏は自ら主導して2013年に大手行の最低自己資本基準を15%に引き上げただけでなく、大手金融機関の解体を提唱している。また銀行住宅都市委員会における最上席の民主党議員として、トランプ政権による金融規制緩和にずっと反対の態度を貫いた。昨年には、銀行の自己勘定取引を制限したボルカー・ルールの軌道修正に猛反発している。トレーディング資産に応じて順守義務が軽減され、適用される規制が分けられたためだ。

今回の選挙結果を受け、来年1月に招集される新議会でそのブラウン氏が上院銀行住宅都市委員長に起用されれば、もはやウォール街は枕を高くして眠れない。同氏は既に、何を優先的に進めるかを示唆する法案を提出している。それは金融界に「ダイバーシティ（多様性）」とともに、さまざまな個性や能力を持つ人を生かす「インクルージョン（包括）」を定着させることだ。同氏は先週、1964年の公民権法が金融機関をカバーしていない以上、こうした取り組みは不可欠だと主張。「レッドライニング」と呼ばれる住宅地域で融資態度を変えるような差別を規制当局により厳しく是正することを求めるとみられる。

金融機関同士のM&Aもハードルが上がるかもしれない。ブラウン氏は、地銀のBB&Tとサントラストの統合や、モルガン・スタンレーMS.NによるEトレード買収を批判した経緯がある。預金機関の金融安定性評価で気候変動リスクの比重も高まると考えた方がよい。

ウォール街にとって多分最も恐ろしいのは、21世紀版の「グラス・スティーガル法」導入だろう。銀行と証券の分離を柱とする同法は過去に廃止されたが、民主党のエリザベス・ウォーレン上院議員を中心に復活させようとする動きが出ている。

## 25%を現金、25%をゴールド、 25%を高品質の債券、そして25%の株式

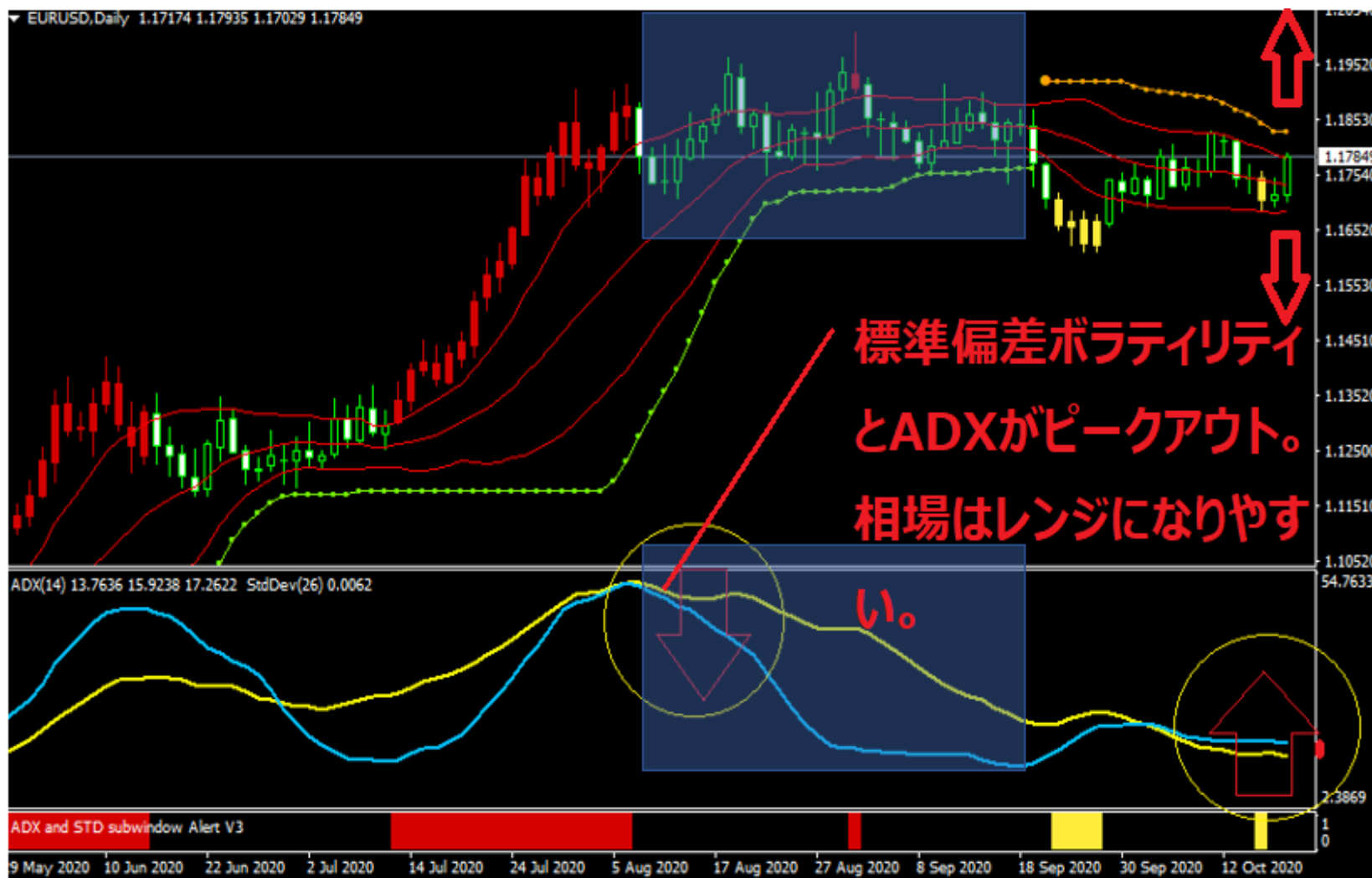


「我々は、非道な量の赤字支出であからさまな社会主義政策の確率を割引しなければならない」とガンドラックは言った。「それは株式市場と債券市場にとって大きな問題となるだろう」

今後の先行きは全くわからないし、結構過激に変わる可能性があるので私の助言は極端に投資を分散させることだ。こんなことは今まで勧めた事は無い。(ジェフリー・ガンドラック)

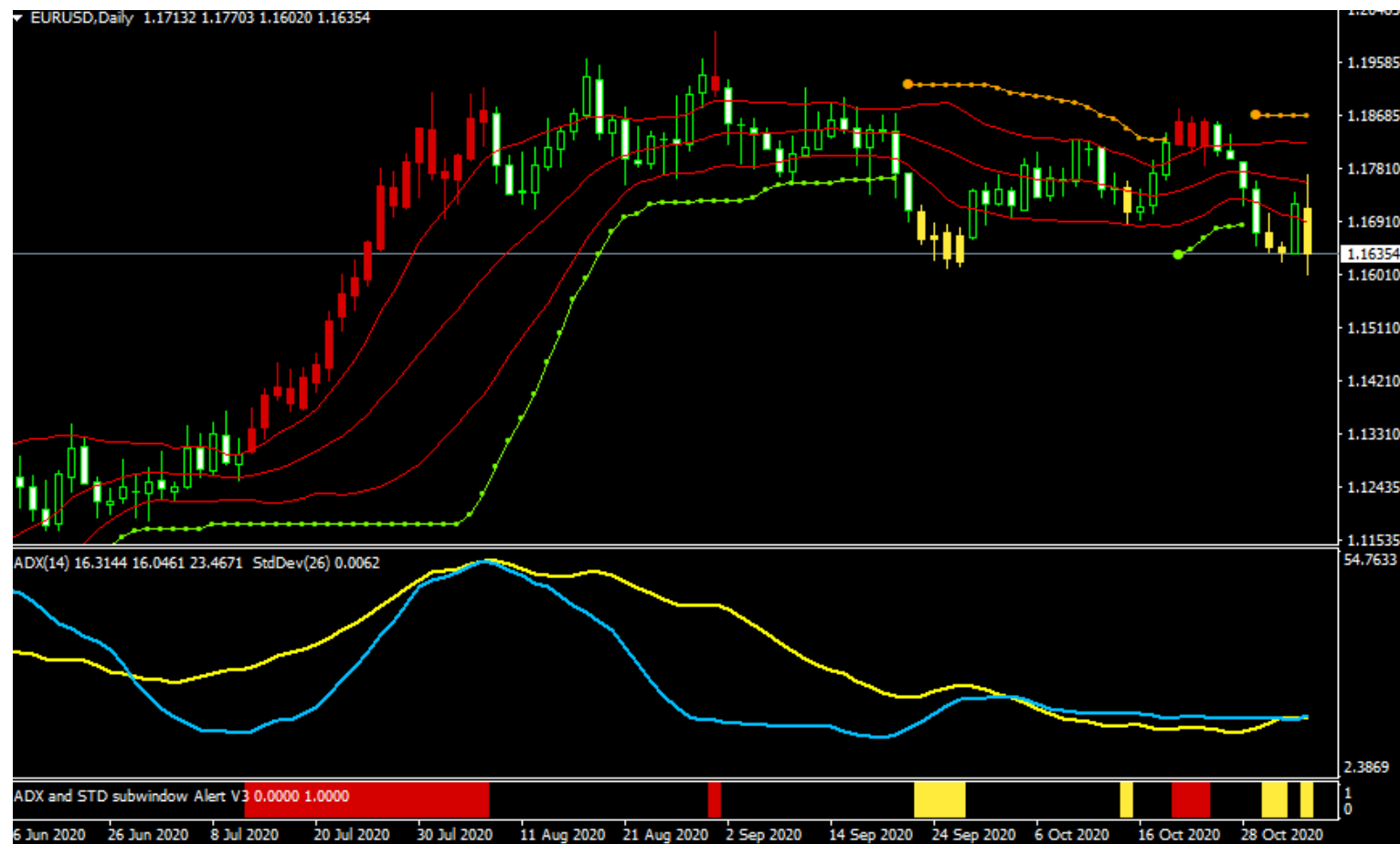
ミューチュアルファンドに基づいて言えばパーマネントポートフォリオは10年前に大変に人気があった。昔は大変に成功した。その内容は25%を現金、25%をゴールド、25%を高品質の債券、そして25%の株式だが、とても良い資産分散だと思う。インフレが来れば株式もそんなに悪く無いはずだ。今の米国の財政赤字とGDPの状況で、GDPに対する赤字が増えるとデフレが来るかもしれない。その場合は高品質の債券と現金が資産を守ることに貢献する。25%の現金、25%のゴールドは多すぎる感じを持つだろうが、今の経済状況では良い手法だろう。

# トレンドフォロー売買の基本

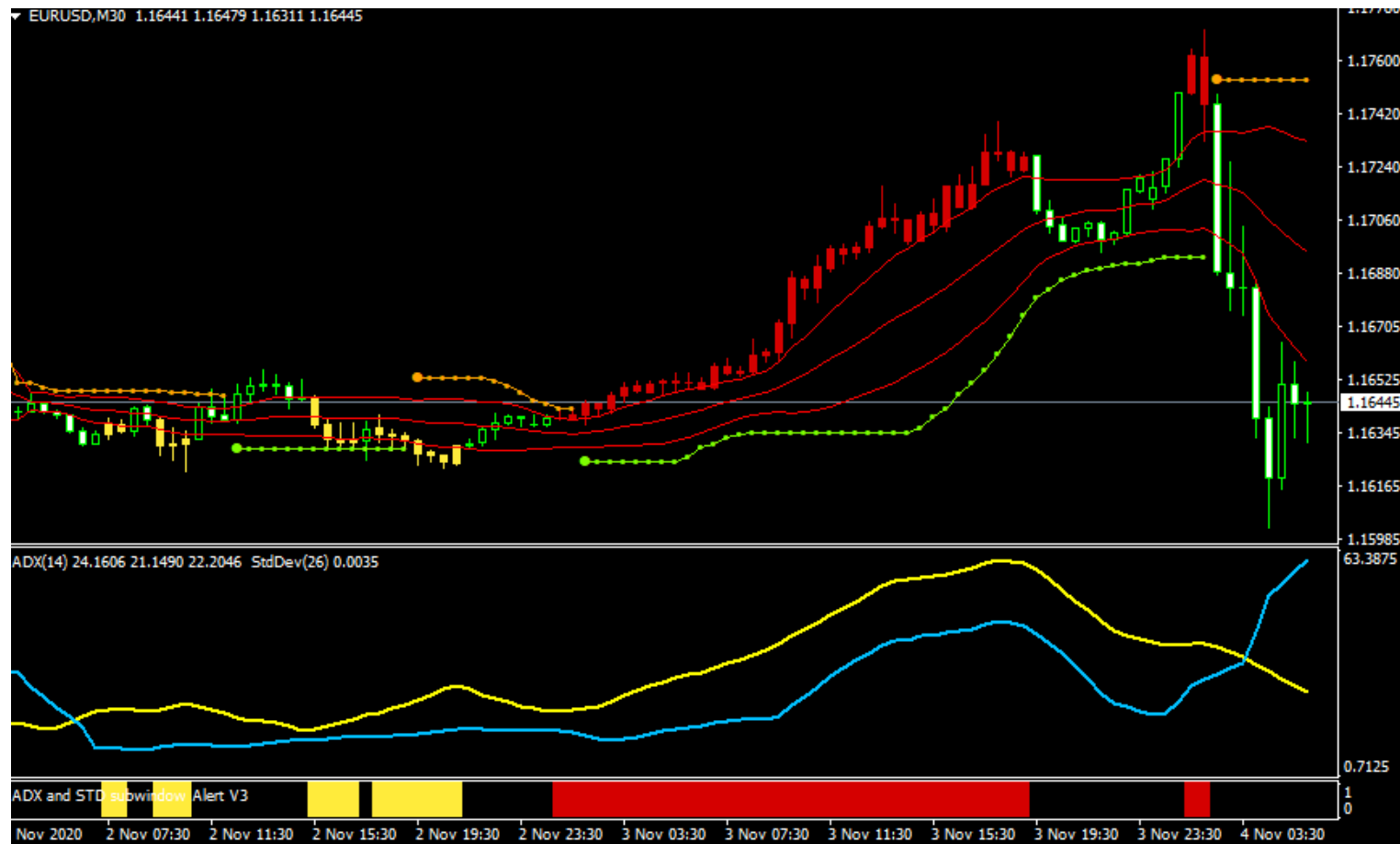


出所：筆者作成

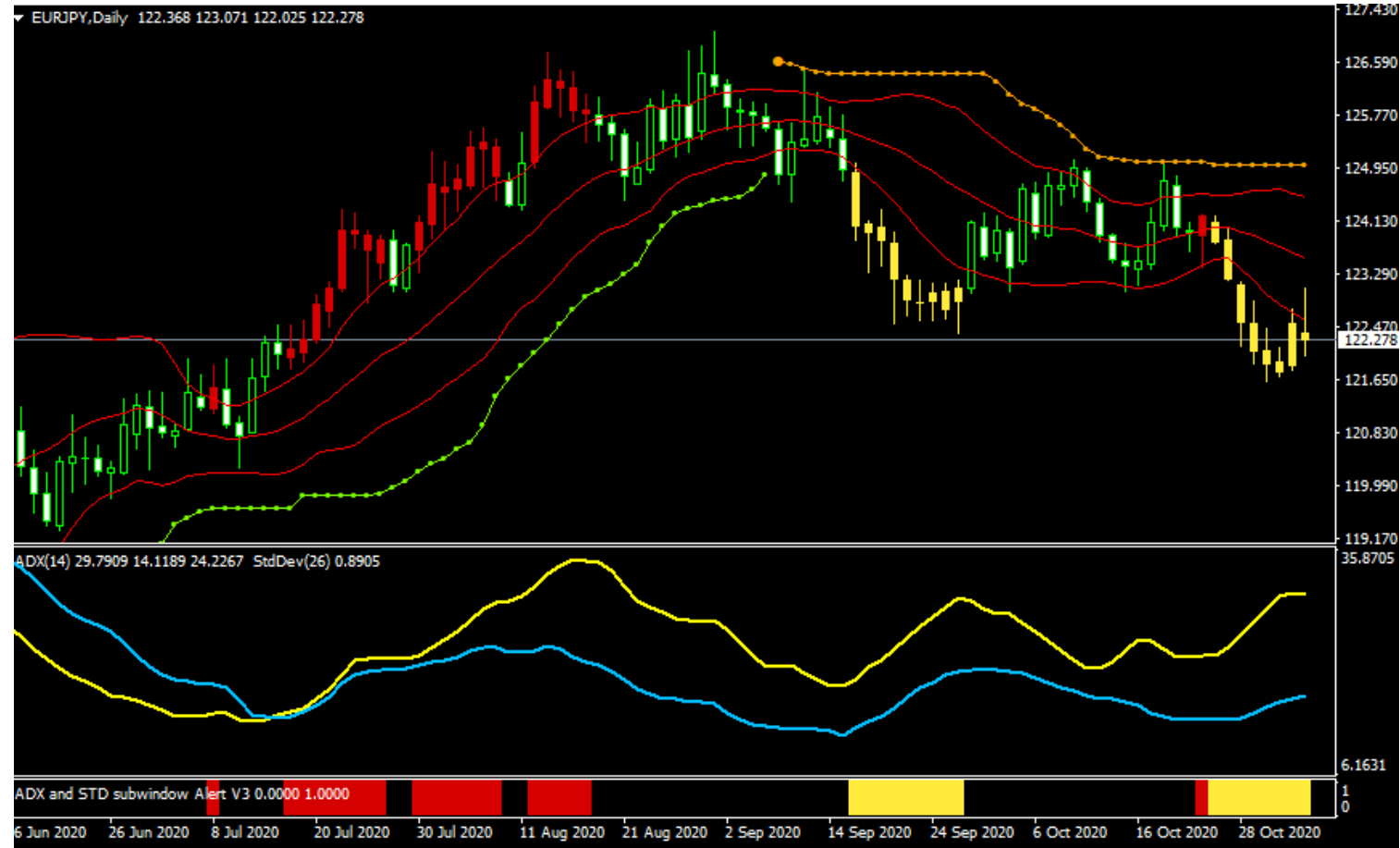
# ユーロ/ドル (日足)



# ユーロ/ドル (30分足)



# ユーロ/円 (日足)





# ポンド/円 (日足)

